

都市の魅力度とは？



観光意欲も湧いてくる。住んでみたいような都市ばかりだ。

全国には四十七の都道府県があるから、一県当たり、魅力度百位以内にランクされている市区町村が二都市あってもいいはずだ。しかし、実際には著しい地域格差がある。もちろん各県によって、自治体の数はまちまちなので単純に割り切れるものではないが、北海道のように十二市町村も百位以内に入っている自治体もあれば、一つもランクインしていない県が十一もある(秋田、茨城、群馬、埼玉、新潟、福井、香川、徳島、愛媛、鳥取、佐賀)。これはどういうことか。本当にこれらの県には魅力のある都市がないというのか。決してそうではないはずだ。

秋田県に仙北市という都市があるが、全国的な知名度はほとんどない。それほど魅力のない都市なのかというと、そうではない。仙北市は平成の大合併で、仙北郡にある角館町と田沢湖町、西木村の三町村が合併して誕生した都市である。「みちのくの小京都」として名高い角館と、水深日本一の湖として知られる美しい田沢湖、それに温泉地として人気がある乳頭温泉郷を有する魅力的な都市なのだ。その都市が、魅力度ランキングの百位にも入っていないのは、仙北市という都市名が認知されていないからだ。合併したことによって、角館、田沢湖というブランド地名が埋没してしまっている。「仙北市」という市名をもっと積極的にPRし、全国へ情報発信することが課題だろう。

また、都道府県庁所在地なのに百位以内にランクされていない都市が、全部で二十八市もあるというのもし淋しい。さらに、政令指定都市で

あり、県庁所在地でもあるのに、魅力度ランキング百位以内に顔を出していないのが五都市もあるのには驚く。さいたま、千葉、新潟、静岡、広島、五市である。この結果をどう受け止めるかだ。これらの都市には、それほど魅力はないのだろうか。政令指定都市であり県庁所在地だということだけでも充分にブランド力を持ち備えており、魅力がある都市のはずなのに、百位にも入っていないというのはある意味情けない。

例えば、静岡県は好感度の高い県で、「どこに住んでみたいか」というアンケートでも絶えず上位に名を連ねている。百位以内には熱海、伊東、浜松など五市が入っている。だが、肝心の県庁所在地がランク外とはどういうことか。静岡市は近代的な都市だし、「新日本三景」の三保の松原や日本平、登呂の遺跡などの観光資源、海の幸にも恵まれていて。背後には富士山がそびえているし、何よりも国立公園に指定されている南アルプスも市内に控えている。それなのに魅力度ランキング百位にも入っていないというのは、全国に情報発信するという努力、工夫を怠っていると思えないのだ。

魅力的な都市になると人や物が集まり、経済活動も盛んになって活気がでてくる。その都市に住みたいという人も増えてくるだろう。そういった意味で、市区町村の魅力度のランク付けをするということは、各都市に反省材料や今後の指針を与えてくれるばかりではなく、刺激にもなる。今後その都市がしなければならぬこと、見直す点など多くのことを教えてくれるに違いない。そして、魅力度ランキングの上位に名を連ねるように、魅力ある街づくりに取り組んでほしい。もちろん、全国にアピールすることも忘れないことだ。

毎年八月、ブランド総合研究所では、「地域ブランド調査」と称して、全国の市区町村を対象にして、その都市にどれだけの魅力があるかの調査を行っている。調査項目は六十三にも及び、認知度、観光資源、産物、味覚、街並み、商業施設など、その都市の魅力度を調査し、さまざまな角度から分析している。市区町村にとつては今後の街づくりの方向性を示してくれる貴重な資料だと言える。調査方法はインターネットにより、全国の約三万五千人から回答を得て、その結果を魅力度ランキングとして公表している。

本誌の昨年十月号にも、魅力度ランキング百位までが紹介されていた。一位札幌市、二位函館市、三位京都市、以下横浜市、小樽市、神戸市、富良野市、鎌倉市、軽井沢町、金沢市と続く。この顔触れを見るとなるほど納得する。どの都市も魅力的であり、一度行ってみたいという